

暮らしに寄り添い続ける、歴史あるサステナブル素材の麻織物を現代のライフスタイルに取り入れた新しい『細タペ』シリーズが登場

京都洛柿庵（本社：株式会社ルシエール・ジャパン 京都市西京区 代表：村田憲彦）が製造・販売する『細タペストリー』は、このほど20周年を迎えました。これを記念し、名称を『細タペ』と変更し、20周年記念アイテムを2023年1月26日（木）より発売いたします。



「むっくり」と美しい麻織物にほれ込み、製造を開始して、20年

ルシエール・ジャパンは、1975年に（村田工芸として）創業した当時、京都で培った織物や染色の技術を活かして、和装小物を多く手がけていました。1985年ごろ創業者の村田俊一が手織りの麻布と出会い、その独特のツヤと「むっくり」とした質感にほれ込んだ事をきっかけに、麻製品の製造を開始しました。

「むっくり」とは、あたたかみや、丸みのある良さを表現するときに用いる京言葉です。麻布は糸に凹凸があることから、織り上げたときに、野趣あふれる味わいと素朴さが生まれます。そこに職人たちが手織りしたあたたかみが調和し、優しい風合いをつくりだしていました。それを村田は京都独特の美意識、「むっくり」と共通していると感じたのです。

麻の種類と歴史。「苧麻(ちょま)」は武士の礼装などに用いられた高級織物

神事に用いられたり、衣服に使われたり、古くから麻は日本でなじみのある素材で、縄文時代の遺跡からも出土しています。奈良・平安時代、律令制のもとでは麻は年貢として納められるなど、栽培が盛んであったこともうかがえます。

麻には、「亜麻」「大麻」「黄麻」など、さまざまな種類がありますが、細タペで使用しているのは「苧麻」です。苧麻でつくった布は、丈夫で軽やか。織り上げ、染色したときの光沢は、ほかの麻布にはない気品と美しさがあります。そのため、衣料材料として絹に並ぶほど重宝されてきました。江戸時代には「奈良晒」のような最上品が武士の礼装「袴（かみしも）」に使われ、越後、近江、能登など、全国各地に高級な麻布「上布」の産地が登場するに至りました。

しかし、明治以降、服装の変化や綿など他の素材の増加といった影響を受け、苧麻の栽培と麻織物の生産は、とくに戦後になると激減。現在では、国産苧麻の麻織物はほとんど見る事ができない状態です。



栽培～手織り～商品化までを、自社生産にして、高い品質を守る

麻は、植物だけでつくるサステナブル素材。織物にするまでに、苧麻の茎の皮を剥ぐなど、大変な手間と高度な技術が必要な作業です。村田俊一は、この美しい苧麻の麻織物とその製法を後世に残したいと、2001年、中国江蘇省に関連会社を設立し、染色工場を建設。苧麻の栽培、糸への加工、織物に仕上げるまでを中国四川省の産地にて行っています。

《苧麻から麻織布ができるまで》



- ①2m近く成長した苧麻を収穫
 - ②茎の皮を剥ぎ、取り出した繊維を手績(てう)みして糸にする
 - ③糸同士を(撚らずに)手作業でつなぎ、太さを揃えながら長い糸をつくる
 - ④強度を増すため、並べた糸に糊をつける
 - ⑤炭をおこした上で乾燥させる
 - ⑥機織り機に、経糸を一本ずつ通して手織りで織りあげる
 - ⑦工場では糊抜き、プレスにかけて、はりのある麻織布に仕上げる
- ※収穫から麻布の完成まで約3か月かかります



日本・中国両国に受け継がれる手仕事を後世に伝えたい

合理化、機械化が進む昨今、手間や時間のかかる手しごとが次々に姿を消していきます。人の手にこだわったものづくりを続けていくことは簡単なことではありませんが、京都洛柿庵では手しごとならではのぬくもりこそが、人々の暮らしにやすらぎを感じさせるのに欠かせない事だと考えています。

京都で制作した図案をもとに、中国の四川省で織りあげられた麻織布を、弊社の工房にて熟練職人が一点一点染色・加工を手作業で行っています。

20周年を記念して『細タペ』が日本各地の工芸とコラボ

2004年、麻素材専門の和雑貨ブランド「京都洛柿庵」を立ち上げ、日本の四季の草花や歳時記を感じさせる製品を、麻織布で作り続けてきました。なかでも月間製造2,500本と、大変好評をいただいているのが横10cm×縦170cmと細長いタペストリーです。その形状から、和洋の空間で飾る場所を選ばず、ライフスタイルが変化した現代でも気軽に日本の文化を感じられると喜んでいただいています。

このほど、このタペストリーの発売20周年を記念して、『細タペ』と名称を変更。さらに日本各地の工芸とコラボレーションした新しい『細タペ』シリーズを2023年1月26日(木)より販売いたします。



京都洛柿庵
三条店 〒604-8205 京都市中京区衣棚通三条下る三条町339
[TEL:075-255-6625](tel:075-255-6625)

株式会社ルシエール・ジャパン
本社 〒615-8101 京都府京都市西京区川島東代町31-2
[TEL:075-394-0230](tel:075-394-0230)

職人×職人が生んだ「細タペ」誕生20周年コラボシリーズ 全5種類



「細タペ」はすべて一つひとつ職人の手作業で染め上げています。その手法は生地を張りながら刷毛で染め上げる引染、型染、手描き、手彩色などで、草花や日本の歳時記をモチーフに1シーズン約20種のデザインを発表しています。2023年はさらに20周年記念シリーズが登場。日本各地5つの工芸の職人とのコラボレーションを展開します。



組み紐

京都・宇治「昇苑くみひも」製の京くみひもを生地にあしらいました。小さな装飾が細タペに立体的な面白さを創り出してくれます。

税込14,080円



えんむすび

ガラスの中に銀箔を入れて焼成したトンゴ玉の一種、ホタルガラスを麻織布に。ガラスのきらめきが見る位置、時間ごとに異なる表情を見せてくれます。

税込13,200円



掛け香

かけこう細タペのおもりの部分に、京都の薫香の名店「天香堂」特製のお香を納めました。視覚だけにとどまらない遊び心に溢れたお品です。

税込14,080円



本金箔 六金瓢

ろくきんびょう

凹凸のある麻生地に箔を貼る高度な技術は金沢箔の名工房「箔一」の職人ならではの。色味の異なる2色の金箔で縁起物の瓢箪をモダンに表現しました。

税込60,500円



手描き友禅 花見遊山

はなみゆさん

京都を代表する伝統技術「手描き友禅」の技をもちいて丁寧に絵付けした最上位モデル。「物見遊山」の言葉から「花見遊山」へ発展させた華やかで煌びやかな京都らしい意匠です。

税込132,000円

※完全受注生産となります。
(納期：約1ヶ月)



【共通製品データ】 サイズ：W10cm×H170cm 材質：本体 麻100%・棒 白樺

【発売日】 2023年1月26日 (木)

【販売店舗】 京都洛柿庵オンラインショップ 及び 直営店舗 京都洛柿庵三条店

【お問い合わせ先】 京都洛柿庵 本社営業サポート部 担当：古川・佐保

電話：075-394-0230 e-mail：info@leciel-japan.com

商品について詳しくは京都洛柿庵「細タペ」誕生20周年 特設サイト <https://hosotape.jp> をご覧ください